

宮城県仙台第二高等学校 共学化に関する問題

中間報告

平成16年6月7日
共学化問題研究会

はじめに 去る平成16年1月26日、3月15日の同窓会常任委員代表者会議を経て西澤会長より『共学化の問題点をより合理的に議論できる資料を整えるように』指示され柴田克彦(高1)を代表に佐伯康全(高8)を事務局長に高橋正道副会長にも指導を受け4月10日に結成、高27回・高28回の若手にも応援を受け、週1回以上約10回の会合を重ねた。経費の問題、資料集めなどに多くの困難があったが、一応一つの方向『共学化を急いではいけない。県、学校、生徒、保護者、そして同窓会、有識者の方々が一つになって話し合う場を設け検討すべきがより正しい選択であろう。』という方向が見えてきたようである。敢て中間報告をする次第です。

1. 行政上の問題 (手続き上の手順の問題)

県が例外なき共学化の唯一の拠り所としているのは「有識者会議の報告書」である。ここに記されているのは「世の中男と女がいるのだから高校も男女一緒が自然」という主張のみであり、教育的効果、教育上の実績、実例がない。更には、この有識者会議は男女共同参画社会推進を理由に共学推進を打ちだしている。その傍らで県が県民向けに使っている説明は「性によって入学を制限するのは不適當だ。」とする「門戸開放」である。

しかし門戸開放論は、県民の間にほとんど知られていない。

知事の一声で始まった『共学化』は、高校教育に永年精魂込めて尽力されてきた方々や、応援・支援をされてきた同窓会・PTAの意見に一切聞く耳もたずの一点張りであり、それがファッショ的との批判を生み、共学化問題をより複雑化させている原因ともなっている。

共学化に賛成の方にもこの点だけは容認しないとしている方が多い。

なお、共学化の基調となった有識者会議の議事録が手に入った。唯々驚くばかりである。これで一律共学化とは怒りさえ覚える。もし、必要な方がいらっしゃればお分けしたい。

2. 男女共学の流れ(男女別学の現状)

(1) 宮城県内 3月15日の代表者会議の席で、相沢宮教大教授(有識者会議メンバ-)

が講演の中で、共学化推進の立場で「宮城県の共学の流れ」の根拠として挙げられた数字以下のものである。

	別学校	共学校	概 要
昭和 23 年 (1948 年)	75.7%	24.3%	戦前からあった中学・女学校 別学 昭和 23 年新しく出来た高校は共学
平成 15 年 (2003 年)	15.0%	85.0%	新設校 昭和 38 年仙台三高 別学 以後 48 年泉高校より共学校 実業高校 順次共学となる。
平成 16 年 (2004 年) (県立 23%)	25.8%	74.2%	最近では 若柳校、栗原農業 合併
	定員数 31%		

上の数字は、昭和 23 年から平成 15 年までの別学校・共学校の校数の変遷だけを挙げたものであり、概要に示した時々の内容を顧みないものである。この数字を元にして、共学は時代の流れと言い切るのは無理であろう。

(2) 国 外 別学校は相当数存在する。イギリスでは有力校の上位には別学校が多数格付けされている。例えば、上位 50 校の内、男子高校 18 校、女子高校が 28 校、共学高校が 4 校と言う報告 (Top 50 schools in UK より) や、上位 50 校の内 8 割以上を別学が占めていると言う報告 (BBC News, Education League Tables 2001) がある。

また税金で運営される公立高校は性差による入学規制があってはならないとの考えに基づき、1970 年代から共学化を進めてきたアメリカでは、10 年程前までは別学教育を行う高校の数は僅か 3 校であったのが、近年性差別規制の考え方を改め、今では別学教育を行う学校が 97 校になっており、尚かつ増加傾向にある。共学と別学の共存が国民に選択肢を与えるとして見直しが進んでいる。(2004 年 3 月 3 日付 USA TODAY 「Federal officials to ease limits on same-sex public schools」他)

豪州等にも別学校が相当数存在する。(オーストラリア政府教育情報センター Web Site <http://www.study.australia.or.jp/highschool.html>)

英国教育研究財団の報告に、別学の学力成績に対する効果を記したのものがある。(Thomas Spielhofer, Lisa O'Donnell, Tom Benton, Sandie Schagen, Iian Schagen, The Impact of School Size and Single-sex Education on Pupil Performance, June 2002, National Foundation for Education Research, UK) それによると、総合制

別学校の女子生徒の方が共学校の女子生徒より成績達成度、特に科学（理数系科目の意）において高いという報告が記されている。また、この報告では、別学校の男子生徒は共学校の男子生徒に比べ顕著な差は見られないが、それでも科学（理数系科目の意）においては別学校の男子生徒の方が到達度が高く優位性があると報告している。また、別学にした方が、女子生徒が数学や物理を選択する事例が増えると指摘する報告例がある。男子の存在に影響されない環境が女子生徒の志望選択に有効に作用すると言う指摘である。（Leonard Sax, M.D., Ph.D., Science, Computers, and Gender Equity - Is there a role for single-sex education? National Association for Single Sex Public Education, 2002 より）一般的に言われる、この科目なら男の子と言った、性差による科目選択の形を打ち破るものであり、こうしたことは他の研究結果からも報告されている。詰まり、別学校の方が女子の才能を伸ばすのに有効と言うことになる。

参考：宮城県内の別学・共学校でこれと同じ傾向にあることが、多くの教師によって語られている。

3. 別学高校、共学高校、高校学歴による未婚男女の結婚観など

別学あるいは共学の成果としてどのような人生観・社会観を、それぞれの高校卒業生が持つようになったのかを、その結婚観を代表例として、国立社会保障・人口問題研究所が行った「第11回出生動向基本調査」（1997年）のクロス集計表をもとに比較した。（添付資料「高校学歴による未婚男女の結婚観」を参照）

一見して判る通り、高校の別学・共学に関わらず結婚観の傾向は同等であり、別学高校教育が「不自然な」結婚観を招来したと読み取ることは出来ない。したがって、共学化の論拠の中心である「男と女の世界 男女共学が自然」「男女別学はその後の対異性観に影響」ということについては、結婚観を代表例としてこの調査を見る限り、高校生活の三年間別学であっても、何等有意差が認められないといえる。

寧ろ別学の方が男性・女性を直接に意識せず、勉学に部活動により精進できる、より良い学ぶ環境につながるのではないだろうか。

4. アンケート調査（中間報告）

調査の留意点

1. 高校生の親を中心として、できる限り（40代～50代）の親を対象とする。
（二高生、または卒業して5年ぐらまでの子を持つ親）
2. 単なる Yes No 式でなく、意見を具体的に筆記してもらえよう工夫する。
3. 中学生を子に持つ親の意見も聞きたい。

4 . アンケ - トの作成を、高校生・中学生を子に持つOBを中心とする。

以上の点をもとに、2度の会議を経て5月8日作成、5月10日より配布。

5月26日現在：配布500枚 回収360枚

5 . 今後の予定

福島県を中心に他県の現状の調査

県に対しての情報公開請求

別学・共学校についての学力面、スポ - ツ面の調査

別学・共学校出身者の性犯罪率の比較

母校に対する満足度の比較

更なるアンケ - ト調査

その他

終わりに 調べてみればみる程「なぜ今 急いで共学化？」の念を強くする。決して共学化は時の流れでもないし善でもない。共学化予定順が最後の高校の時は「もう止～めた」とまた一大混乱を起こすかもしれない。せめて後輩のため毅然とした態度を取りたいものと思う。

宮城県仙台第二高等学校共学化問題に関する参考事例

平成16年6月7日

宮城県仙台第二高等学校同窓会
共学化問題研究会

【参考1】共学化しても男子高の伝統が守られていると言う引用のからくり：

女生徒の入学を認めても尚かつ旧制中学校以来の男子高としての伝統が守られているとされる共学校の例がしばしば引用され共学化の根拠にされているが、そうした元男子校の共学校は、内部に男女の定員枠を何らかの形で設定しており、女子生徒数が一定比率以内（詰まり少数派）になるように運用されている。（盛岡一高、山形東高）

【参考2】男子校を共学化した結果まったく別物になった事例：

定員内で女生徒数の比が一定比率内とすることをせず学力のみで入学を認める場合は、女生徒数が過半数を占めることも実際に生じており、そうした状況に至ると本来有していた男子校としての校風は消滅する。女生徒数が半数に迫るだけでも校内の雰囲気を変容してしまうと言われる。（熊本育々高、湘南高）

【参考3】県の方針で仙台二高を共学化した場合の想定：

宮城県の方針では学力のみにより入学者を選抜するので、上記【参考2】に該当する。よって、仙台二高は男子校として百余年培ってきた校風等が共学化により消失する可能性が高い。また、仙台二高の内部文書「二高将来ビジョン」によれば、二高の共学化とは現状の二高に単純に女子生徒の入学を認めるものではなく、現状の二高の校舎校地を用いて事実上新たな学校を構築する構想となっている。（例：新たなスクールアイデンティの確立、学校行事等の見直し等々）校名や校歌の変更も遠からず俎上に上がる可能性が高い。よって、「仙台二高の伝統は守り守られる」とする県側の言い分は虚言に過ぎない。

【参考4】仙台二高が女子生徒を受け入れた場合の想定：

入学当初に行われる応援団入団式の様な伝統行事は、新入生が仙台二高生として上級生から洗礼を受ける場面であり近年日本社会では見出しがなくなった通過儀礼である。仙台二高の応援団入団式の様子と新入生に与える心理的効果に就いては「仙台二中二高百年史」(平成12年10月24日発行)に佐々木武夫氏(高4回)の記述がある。女子を含めた場面では成立しがたい。伝統は日々の学校生活の各所で継承されるものであり人を育てる性格を有している。言う迄もなく、仙台二高の伝統とは男子校である所に依拠しており、そこに女子を含めてしまえば、全面的な見直しとならざるを得ない。現に学校当局は生徒に学校行事等の見直しを指示している。

同様に、女子高も伝統的な学校行事などの見直しは必至であり、大きな影響を受けるのは間違いない。

【参考5】高校生の問題行動：

別学校へ子供を通わせている父兄が県の教育に望んでいることとは、今回の意識調査によれば、共学化の強制ではなく、基礎学力の向上とが生活態度の改善と言った、本来の学校機能の強化である。特に宮城県等では高校生の問題行動の多さが社会的問題となっている。(平成16年3月2

日付け河北新報「カップラーメン食べ放置 たむろや座り込み、喫煙 苦情の半数 高校生関連」学校の基礎をおろそかにして男女共同社会推進を謳うのは使命放棄である。

【参考6】予備校頼りの学力向上：

父兄が県の教育に望んでいるのは基礎学力の向上である。しかし、現状は予備校依存と言う状況が指摘されている。(平成16年1月29日付け朝日新聞「学力向上 予備校頼り」) 記事より引用する。“文部科学省が実施した高校3年生対象の学力テストでは、理数系の弱さが目立った。「解決策」を模索する学校側は、これまでは受験が専門とみなしていた予備校が蓄積した情報力と、学力を伸ばすノウハウに期待しているのが現状だ。”言うまでも無く、我が国は原材料等を殆ど総て海外に依存しており、人材の育成と科学技術の振興無しには繁栄が維持出来ないことは誰しも認める所である。翻って顧みるに、宮城県は高校生の学力水準に於いて全国の最低層に位置している。「一律共学化」に邁進している余裕など無いはずである。

【参考7】福島県内における10代の性感染症の急増：

福島県では伝統校が男女別学であったが、平成6年富岡高校を皮切りに強制的に順次共学化された。その福島県内でこの4年間で性感染症の報告数が5倍に跳ね上がり、特に15歳から19歳の患者の割合が全国平均より3%から5%高いことが報ぜられている。また、同年代の人工妊娠中絶の割合も全国で3番目に高いことも併せ報ぜられている。(平成16年1月30日付け河北新報「福島県内 10代の性感染症急増 県、高一全員に啓発パンフ」) 共学化の推進と直接の因果関係は特定出来ないものの、高校に子供を通わせる親としては無関心ではいられない事象である。

【参考8】宮城県民の意志で維持した別学：

第二次大戦後、米国等連合国の占領を受けた我が国では「進駐軍」という名の占領軍により強制的に高等学校の男女共学化が進められた。他県が進駐軍の圧力の下で次々共学化を強いられた中、宮城県にあっては当時の県の教育行政当局が別学支持の県民意志を代弁し、身体を張ってまで進駐軍側の圧力に抗し、別学校を存続させ、今日に至っている。県の今回の一律共学化という方針は、こうした県民の意志や先人達の尽力や歴史的な経緯を充分踏まえたものとは言いがたい。下に宇野量介著「戦後の宮城教育を語る」(宝文堂、昭和44年)より引用する。

「宮城県の財政難とか、アイオン、カスリン風水害の後始末とか、男子校に女子を収容するためにはかなりの費用がいるとか、下手に男女共学を実施すると、それでなくても戦争後は男女の性道徳が混乱するのだから・・・(中略)・・・高校の内容充実のために、PTAの力も借りねばならず、同窓会の協力も馬鹿にはならないのだ。この同窓会との縁を切って共学にふみ切るだけの勇気はないのだ。一体全体、共学にしてしまえというのは、占領軍の絶対命令かと聞き直ったこともあった。すると命令ではない。サジェスション勧告だという。そんなら、民主々義の原則に則って、地域の実情、住民の意志は尊重されてもよからうではないか。全部一律に型通りにせよというのは、むしろ民主々義に反するのではないか。それでは全体主義に通ずるのではないか、などと冷や汗をかきながら、陳弁につとめたことであつた。」(下線は当研究会が付した。)

財政難とか自然災害とか性道徳の混乱など時代を超えても共通する部分がある。また、「負担す

る所、参加あり」と言うのが民主主義の大原則である以上、学校を陰に陽に直接間接支えている関係各位の意向は無視してはならないことが確認出来る。

【参考 9】我が国の高校生に見る社会規範意識の低下：

我が国の高校生は、米国・韓国・中国の高校生に比べ規範意識が低いことが報ぜられている。(平成16年2月17日付け讀賣新聞「男は男らしく 女は女らしく 日本の高校生最低」) 性差意識の低下は近年の男女共同参画推進との関連性が指摘されている。なお、詳細は財団法人日本青少年研究所平成16年2月発表「高校生の生活と意識に関する調査 日本・アメリカ・中国・韓国の四カ国比較」御参照。

【参考 10】福島県の男女平等思想の履き違え：

いわゆる「ジェンダーフリー」の見地から別学校を共学化した福島県では、男女平等思想の履き違えが指摘されている。福島県立橘高校は、元の福島女子高等学校であり、共学化に際して男女混合名簿や男女混合整列を採用し、ロッカーや靴箱も男女混合、制服も男女共通とした。こうしたやり方に福島県教委から「ジェンダーフリー」という表現を見直すように指導したとのことである。(平成16年3月28日付け産経新聞 Web 版「福島県教委、ジェンダーフリーの表現見直しを指導」) 目下の所、福島県では一律共学化により何が得られているのか不明である。福島県の経過を観察することにより、別学校の共学化の影響を評価することが可能であろう。(因みに、「ジェンダーフリー」とは本来の英語ではなく和製の言葉である。)

【参考 11】結婚率と離婚率：

豪州の報告によると、共学校出身者と別学校出身者の間には結婚率および離婚率の有意差は見られないとのことである。

【参考 12】福島県立安積女子高等学校の実例：

福島県立(旧)安積女子高等学校は、合唱において全国でも最上位の水準を誇り優れた成績を挙げていた。しかし、平成13年に共学化され安積黎明高校となってからは成績が出なくなったそうである。この黎明高校に新しく入ってきた男子生徒も、女子生徒も不活発であると聞く。長年培って来た学校の個性が消滅する実例である。こうした学校の個性により触発され能力や才能を開花させる生徒も多いのではないのか。行政が一律に進める共学化とは、効果不明のまま失うものの方が多いということではないのか。同様のことは当県的女子高に就いても当て嵌まるだろう。例えば、宮城県第三女子高等学校は、合唱で全国に名を馳せ、また体操などでも好成績を収めており、生徒も卒業生も父兄も誇りとする所であるが、共学化によりこうした学校の個性が消滅しかねないのではないのか。一度失われたものを元に戻すのは困難である。歴史を顧みるに、一度捨ててしまうと元あったもの以上のものを創り出すのは容易なことではない。

【参考 13】お茶の水女子大と奈良女子大：

両学の学部卒業生及び大学院終了生を対象とした意識調査の結果がある。何れも別学維持を肯定し支持する比率が過半数であった。特に学部に関しては両学とも7割以上が別学維持を支持しており、比較的若い世代に別学志向が強く表れた。(卒業生・修了生調査 お茶の水女子大学・奈良女子大学、卒業生・修了生のライフコースと国立女子大学の将来像に関する調査、平成13年12月、お茶の水女子大学・奈良女子大学) 女子別学の有効性を裏付けるものではないか。

<<緊急意識調査中間集計結果：5月26日現在>>

宮城県立高校一律共学化政策に関する意識調査

平成16年6月7日

宮城県仙台第二高等学校同窓会
共学化問題研究会

当研究会は、宮城県仙台第二高等学校同窓会常任委員代表者会議が認めた研究会であり、去る平成15年7月宮城県により一方的に発表された仙台二高平成18年度共学化の問題に関して、基本的な資料等を収集し、同窓会が県側に対して行う提言や意見具申等のために必要な内容を検討し、それらの結果を報告書等にまとめる機関です。

宮城県は、平成11年から「例外なき共学化」と言う一律共学化(=強制共学化)を言い出しております。男子校として百余年の歴史を有する仙台二高の共学化もその一環として県が打ち出したものですが、生徒、父兄、同窓会等の関係者とは何の協議等も行わず一方的に打ち出したものです。また、この共学化も定員に男女枠は設けず学力のみで入学させる方針です。可能性として、仙台二高生徒の半数以上を女子が占めることも有り得ます。

当意識調査は、仙台二高に息子さんを通わせておられる御父兄、又はつい数年前まで通わせておられた御父兄を対象とし、併せて二高以外の別学校にお子さんを通わせておられるか又は通わせておられた御父兄、並びにこれから高校進学に臨むお子さんをお持ちの御父兄にお伺いするものです。

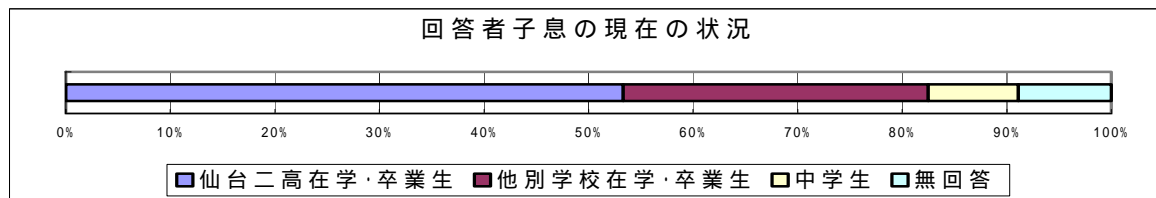
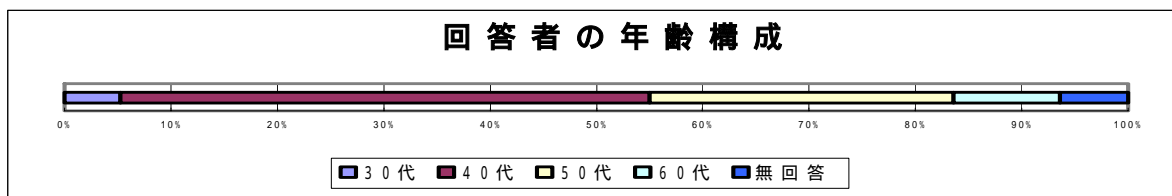
下の各問をお読みになり、答の選択肢の中から御自分のお考えに最も近いものを必ず一つお選び下さい(番号に を付けて下さい)。また、可能でしたら、答を選んだ理由または御意見などを併せてお書き頂ければ幸いです。

問1：

御父兄にお伺いします。いずれかに をお付けください。

- (1) 男性、 女性
- (2) 30歳代、 40歳代、 50歳代、 60歳代、 その他
- (3) お子さんが 二高生または二高卒業生、 二高以外の別学校の生徒または卒業生、
まだ中学生

問1回答						
	男性			女性		合計
	154			206		360
	30代	40代	50代	60代	無回答	
	19	179	103	36	23	
	仙台二高在学・ 卒業生	他別学校在学・ 卒業生		中学生	無回答	
	192	105		31	32	

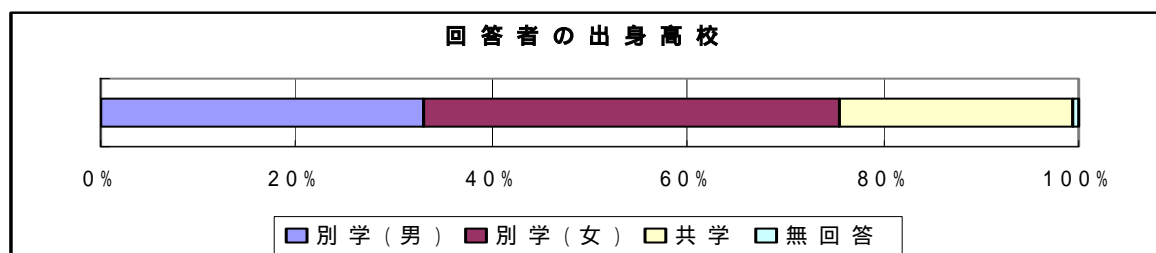


問2：

御父兄にお伺いします。御自身の御出身高校は別学でしたか、共学でしたか？ 尚、同じ高校の中で男女が学級別になっていた学校は共学とします。

- 1) 別学 <男子校・女子校> (どちらかに)
- 2) 共学

問2回答	別学(男)	別学(女)	共学	無回答
	119	153	86	2

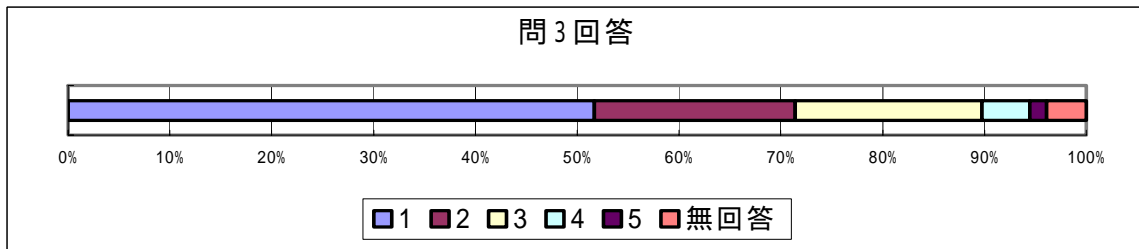


問3：

別学出身者、共学出身者に各々お伺いします。御自分のお子さん(息子さんまたはお嬢さん)が高校進学に臨む際に仙台市内の主要高校が別学であることを知ってどう感じましたか？

- 1) 「学校の個性が豊かで、是非入学させたいと思った。」
- 2) 「案外良いと思った。」
- 3) 「そうなっているので仕方ないと思った。」
- 4) 「何となく異様に感じた。」
- 5) 「過去の遺物、男女差別の典型と感じた。」

問3回答	1	2	3	4	5	無回答
	186	71	66	17	6	14

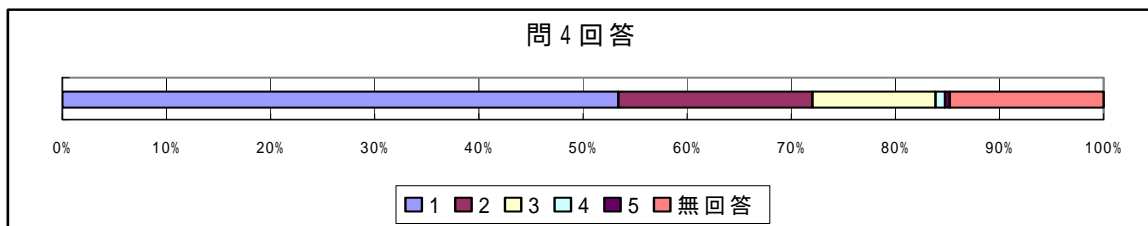


問4：（お子さんがまだ中学生の御父兄はこの問を通過して下さい。）

お子さんを入学させてからはどう感じましたか？

- 1) 「入学させて良かったと確信した。」
- 2) 「案外良いと思った。」
- 3) 「特に問題も利点も感じない。」
- 4) 「共学に行かせたほうが良かったと感じている。」
- 5) 「別学のせいで子の人格形成や生活態度に問題が出た。」

問4回答	1	2	3	4	5	無回答
	192	67	43	3	2	53

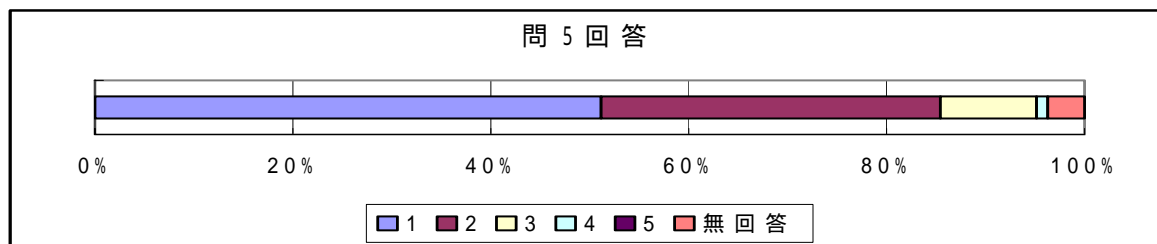


問5：

お子さん自身は、別学校についてどのように感じていますか。

- 1) 「別学校の良さを実感して、生き生きと高校生活を送っている。」
- 2) 「高校生活を楽しんでいる。」
- 3) 「特に何も感じていない。」
- 4) 「嫌だが、入学したのだから仕方ないと感じている。」
- 5) 「嫌でしょうがない。共学校に移りたいと感じている。」

問5回答	1	2	3	4	5	無回答
	184	124	35	4	0	13

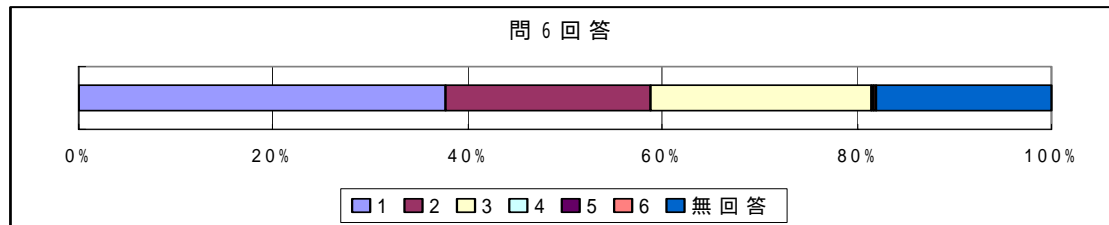


問6：

上の問5で1)、2)または4)、5)とお答の方、具体的な事例を下記からお選びください。該当例がない場合は下欄に自由に御記入願います。

- 1)「異性を気にせず学校生活をのびのび楽しんでいる。」
- 2)「親友とよべる友達ができ充実した時間を送っている。」
- 3)「学校行事に一体感を持って参加している。」
- 4)「学校への帰属感がなく学校行事に参加したがない。」
- 5)「親友とよべる友達ができず孤立している。」
- 6)「異性との交流が断たれて嫌がっている。」

問6回答	1	2	3	4	5	6	無回答
	136	76	81	0	1	1	65

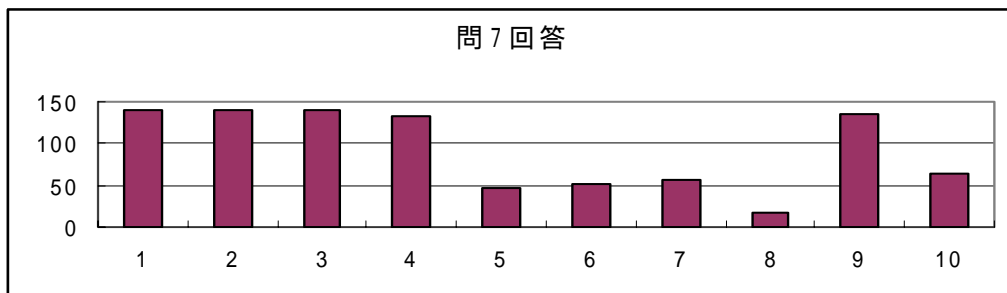


問7：

もしも、お子さんの学校が今年度から共学になり、男子校には女子が、女子校には男子が相当数入学することになったと仮定した場合、どのようなことが起きると思いますか？具体的な事例を下記から3つお選びください（ここだけ3つですご注意ください）。該当例がない場合は下欄に自由にご記入願います。

- 1)「異性が気になり勉強や部活に身が入らなくなるのではないか。」
- 2)「全体の学習レベルが低下してしまうのではないか。」
- 3)「クラス(学校)としての一体感がなくなってしまうのではないか。」
- 4)「部活動への入部人数が足りなくなって存続できなくなるのではないか。」
- 5)「不純異性交遊による問題行動が多発するのではないか。」
- 6)「異性の存在に刺激されて勉強や部活が活発になるのではないか。」
- 7)「学校全体の学習レベルが向上するのではないか。」
- 8)「クラス(学校)としての一体感が増してゆくのではないか。」
- 9)「物の見方がひろがるのではないか。」
- 10)「学校が明るくなるのではないか。」

問7回答	1	2	3	4	5
	140	140	140	132	47
	6	7	8	9	10
	51	57	18	135	65

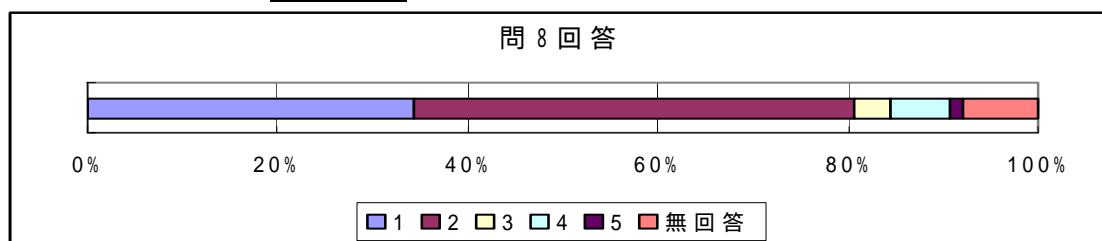


問 8 :

宮城県は平成 22 年度（2010）まで「例外無き共学化」という「一律共学化」を進めています。お子さんを別学校に進学させた御父兄としてどう御覧になりますか？

- 1) 「長年培って来た校風こそ大切。今後とも堅持すべき。」
- 2) 「無理矢理やる必要は無い。」
- 3) 「どちらでも良い。」
- 4) 「反対意見を説得の上、進めるべきだ。」
- 5) 「反対意見を無視しても、進めるべきだ。」

問 8 回答	1	2	3	4	5	無回答
	124	166	14	23	5	28

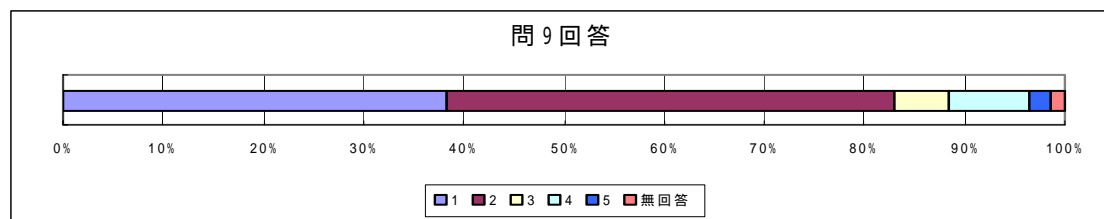


問 9 :

宮城県は平成 11 年に県立高校将来構想素案を公表しました。そのときから「男女共同参画社会」を謳い、男女共同参画社会推進のために男女共学を進める旨を打ち出し、また県の男女共同参画審議会も男女共同参画社会推進のため、男女共学を進めよとの議論をしています。男女共同参画社会推進のために県立高校の一律共学化は不可欠と考えますか？

- 1) 「男女共同参画社会と共学化は、全く関係が無い。」
- 2) 「男女共同参画社会推進のために一律共学化が必要なのか疑問。」
- 3) 「どちらとも言えない。」
- 4) 「共学化を進める必要はるが、一律までは不要。」
- 5) 「一律共学化が絶対不可欠。」

問9回答	1	2	3	4	5	無回答
	138	161	19	29	8	5

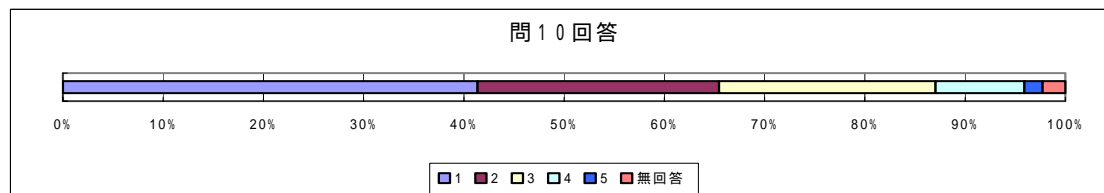


問 10 :

宮城県は公立高校に学区制を維持しています。特に、仙台地区では昭和 52 年度から南北二学区に分割され志望校が居住地区により規制されています。この南北二学区の規制をどうお考えになりますか？

- 1) 「同じ県民でありながら居住地区による規制は不公平であり、直ちに撤廃すべき。」
- 2) 「時間を掛けて撤廃すべき。」
- 3) 「どちらとも言えない。」
- 4) 「現状を維持の上、境界線などを微修正すべき。」
- 5) 「現状を維持すべき。」

問10回答	1	2	3	4	5	無回答
	149	87	77	32	7	8

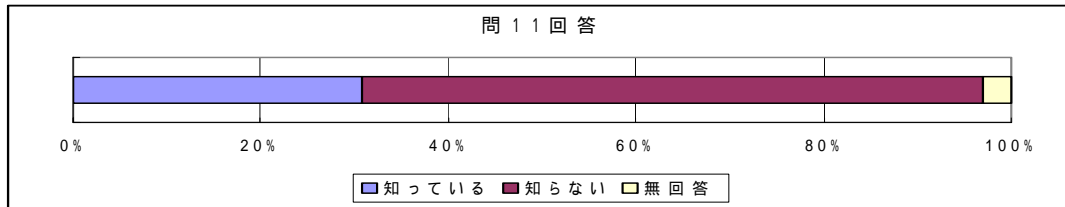


問 11 :

宮城県は昨年平成 15 年秋頃から「男女共同参画社会の為に一律共学化」という言葉は脇へ置き、今度は「男女門戸開放」即ち「性差による入学規制は好ましくない」と言い始めています。この県当局の「男女門戸開放」と言う説明を御存じですか？

- 1) 「知っている。」
- 2) 「知らない。」

問11回答	知っている	知らない			無回答
	111	238			11

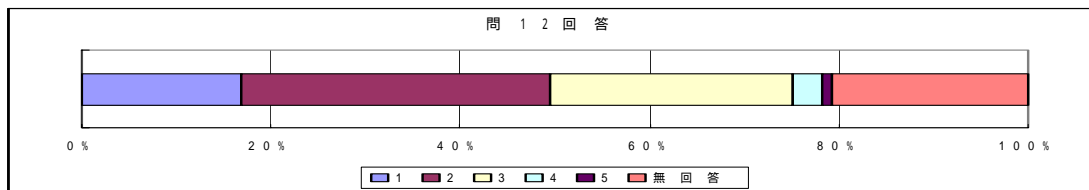


問 1 2 : (息子さんをお持ちの方、御回答下さい。)

県の言う「門戸開放主義」に従えば、宮城県第一女子高等学校等の女子校にも男子生徒の入学を認めると言うこととなります。御自身の息子さんを宮城県第一女子高等学校等の女子校に入学させたいと希望しますか、又は希望なさいましたか？

- 1) 「馬鹿馬鹿しい。考えたこともない。」
- 2) 「他に立派な男子校や共学校が有るのに、何でわざわざ女子校に入れるのか疑問。」
- 3) 「特に希望は無い。」
- 4) 「息子を入れてみても良い。」
- 5) 「宮城第一女子高等学校等の校風は素晴らしいので、是非息子にも入学して体験して欲しい。」

問12回答	1	2	3	4	5	無回答
	61	117	92	12	3	75

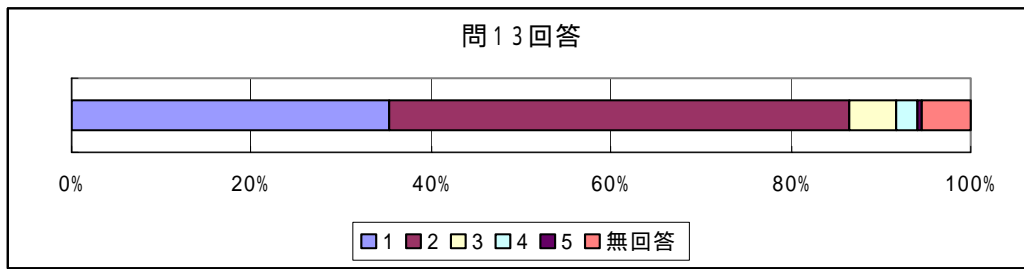


問 1 3 :

御父兄として宮城県の今の高校教育に望むものは何でしょうか？

- 1) 「一律共学化は有害無益、中止すべき。宮城県の学力水準は全国で最下位層である。むしろ進路指導、学力向上、生活態度の改善など本来の学校としての機能を改善すべき。」
- 2) 「共学化に就いては、県民意識調査を始めとする基本情報や科学的データを収集し、教育的効果を検証の上、時間を掛けて進めるべき。本来の学校としての教育指導（学力、生活態度）向上を優先すべき。」
- 3) 「特に無い。」
- 4) 「学力向上等も必要だが、一律共学化を重要事項として進めるべき。」
- 5) 「他の事は全部後回しにしても、一律共学化を最優先事項として進めるべき。」

問13回答	1	2	3	4	5	無回答
	127	184	19	9	1	20

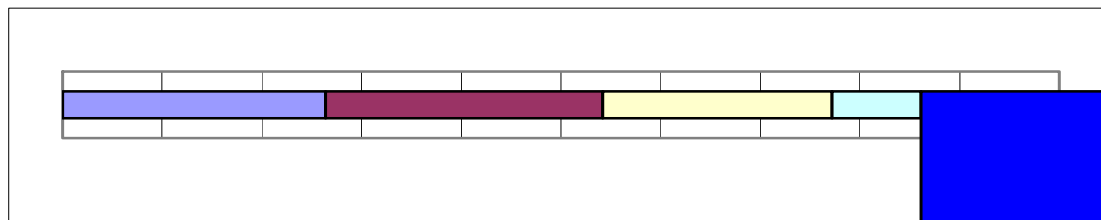


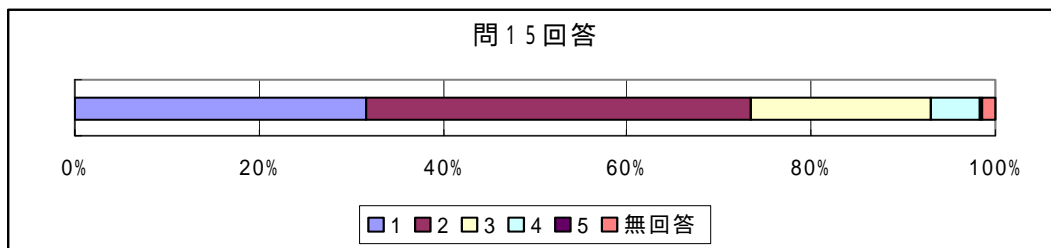
問14：

第二次大戦後、米国等連合国の占領を受けた我が国では「進駐軍」という名の占領軍により強制的に高等学校の男女共学化が進められました。他県が進駐軍の圧力の下で次々共学化を強いられた中、宮城県にあっては当時の県の教育行政当局が別学支持の県民意志を代弁し、身体を張ってまで進駐軍側の圧力に抗し、別学校を存続させ、今日に至っております（宇野量介著「宮城の戦後教育を語る」 末尾御参照）。県の今回の一律共学化という方針はこうした先人達の尽力や歴史的経緯を充分踏まえたものと感じますか？

- 1) 「宮城県の歴史として尊重され語り継がれるべきだし、今後の教育施策を考える上でも参考とすべきである。」
- 2) 「宮城県民の歴史として尊重されるべき。」
- 3) 「知ってはいるが、拘束される必要はない。」
- 4) 「何となく聞いたことは有るが、今となっては関係ない。」
- 5) 「知らない、そんなのどうでも良い。」

問14回答	1	2	3	4	5	無回答
	95	100	83	32	38	12



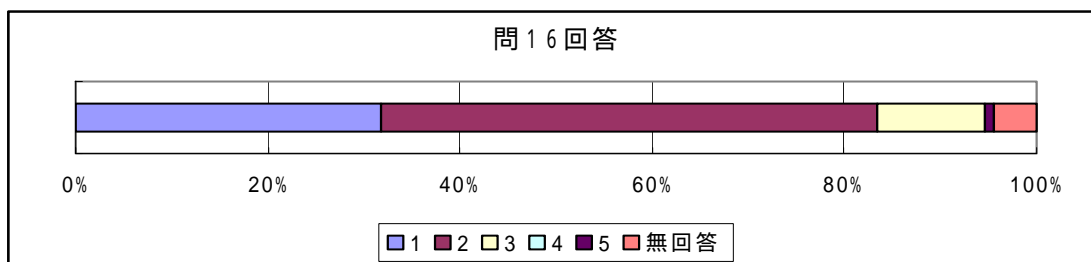


問 1 6 :

都立高校の学校群制度・・・昭和 42 年度より導入・・・は当初から問題が指摘されていたにも関わらず、また数多の弊害が年ごとに増進していたにも関わらず、30 年以上も維持され遂最近平成 14 年になってやっと全廃されました。この学校群制度も美しい謳い文句が付されていました。こうした行政主導の教育改革と称するものをどう感じますか？

- 1) 「行政主導の教育改革ほど失敗し、そして無反省である。」
- 2) 「総てが失敗と言うわけではないが、疑問を持つことが多い。」
- 3) 「特には何も感じない。」
- 4) 「行政が考えた上で行うのだから、間違いはないはず。」
- 5) 「改革になるのなら、行政の力で強制的にでも行うべき。」

問16回答	1	2	3	4	5	無回答
	114	186	41	0	3	16

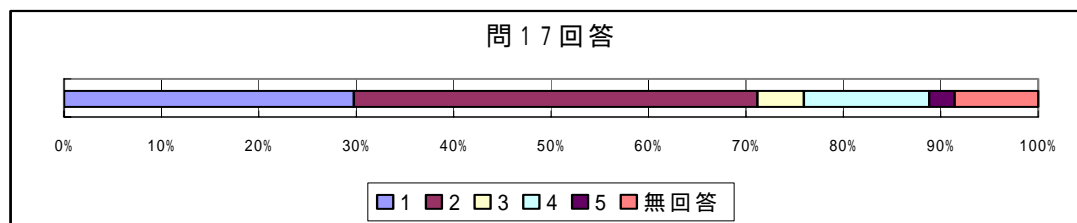


問 1 7 :

宮城県の「一律共学化」方針は、県が開いた「有識者会議」の結論が基になっています。しかし、当研究会が県に対して行った情報開示請求の結果、行政上本来為されるべき県教育委員会における議論は為されておりませんし、また、県知事から県教育委員会に対して別学校の存続若しくは共学化の当否等に関する諮問が為された事実も、またその諮問への答申が為された事実も無いことが確認できました。このような進め方の「一律共学化」が「教育改革」の名に値するものでしょうか？

- 1) 「教育改革に名を借りた政治のごり押しだ。」
- 2) 「手続きに欠陥が有る。教育改革と呼べるものではない。」
- 3) 「行政の手続きなどどうでも良い。」
- 4) 「時代に合わせて変えるべき。」
- 5) 「背景がどうあれ、共学化は避けて通れない。」

問17回答	1	2	3	4	5	無回答
	107	149	17	47	9	31



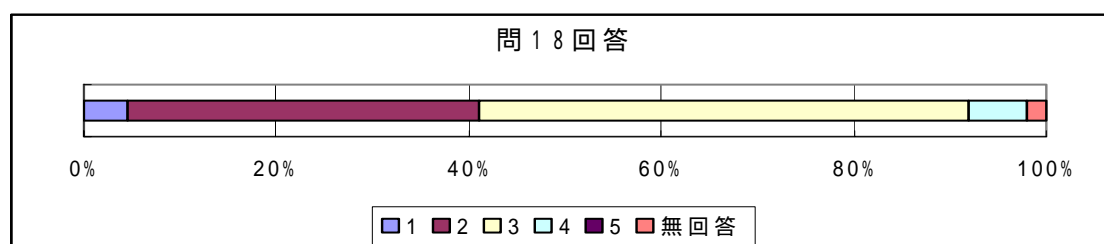
問18：

高校の男女共学は、何をさて置いても実現しなくてはならない至上の普遍的価値とお考えになりますか？

- 1) 「高校の男女共学はそれ自体にも問題がある。」
- 2) 「既存の伝統校を崩してまでやるべき価値は無い。」
- 3) 「別学は別学の良さ、共学は共学の良さが有り、別学共学の共存が選択肢を広げるので好ましい。」
- 4) 「男女共学化は推進されるべきものと思う。」
- 5) 「至上の普遍的価値と確信している。」

問18回答	1	2	3	4	5	無回答
	16	132	183	22	0	7

特に4)又は5)をお選びになった方は必ず御記入下さい。

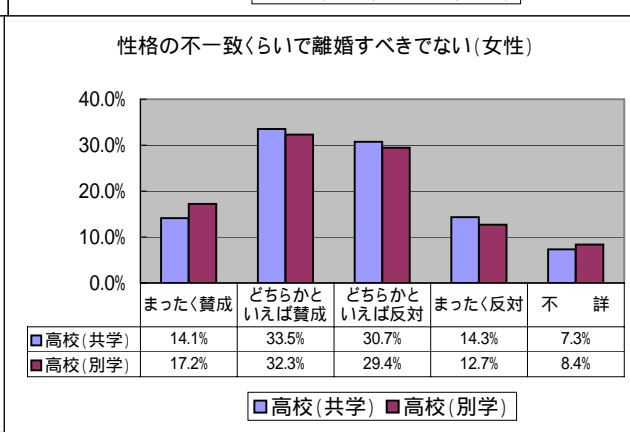
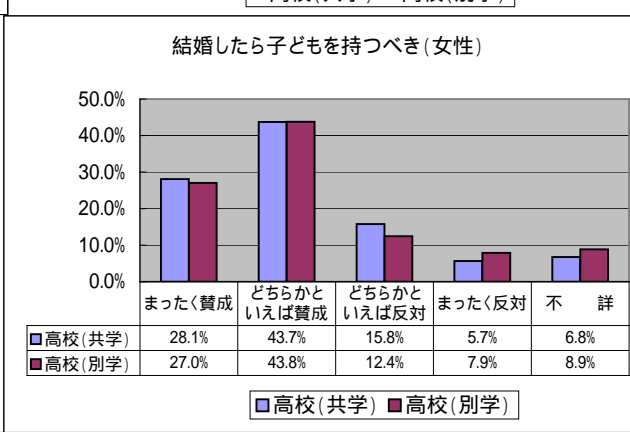
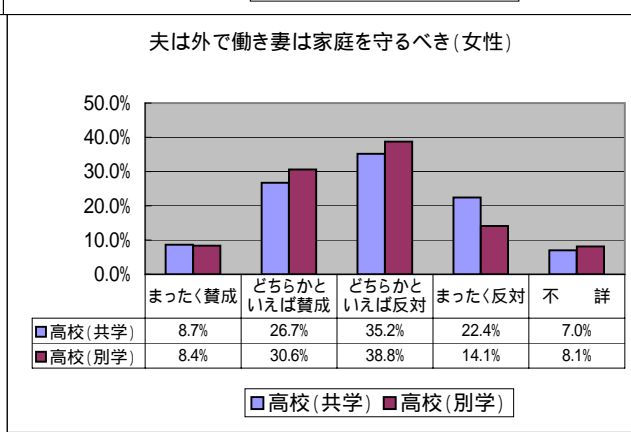
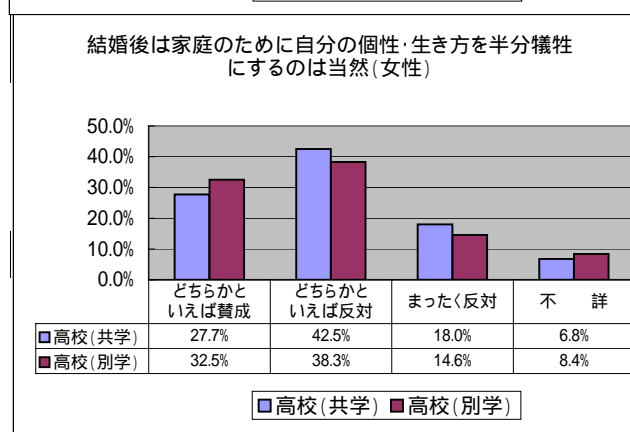
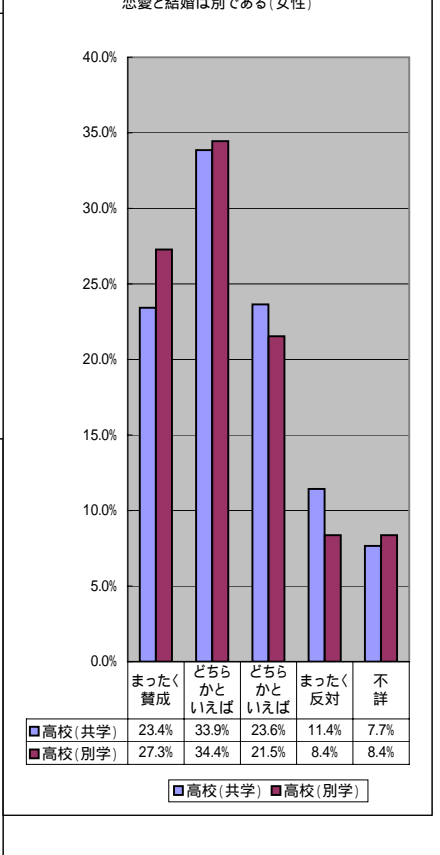
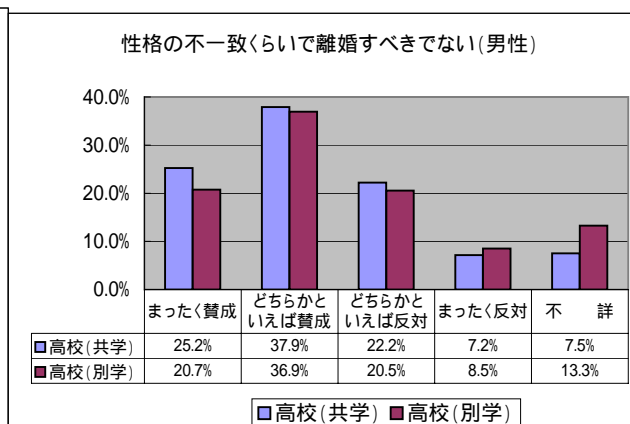
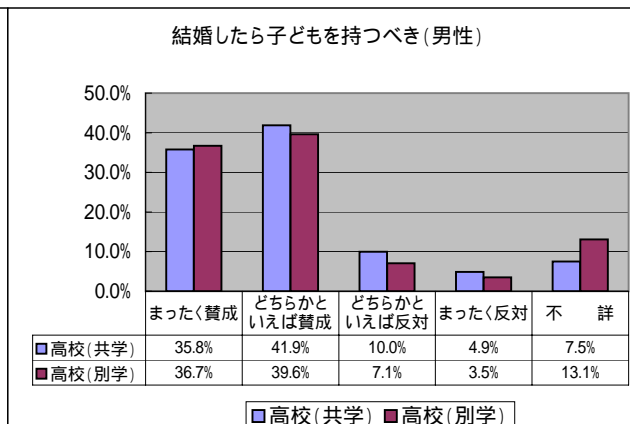
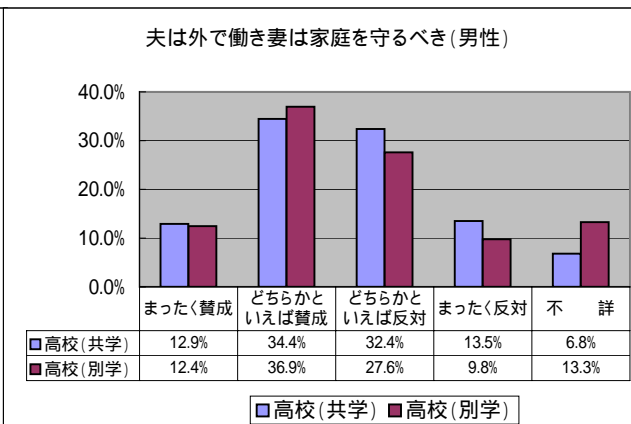
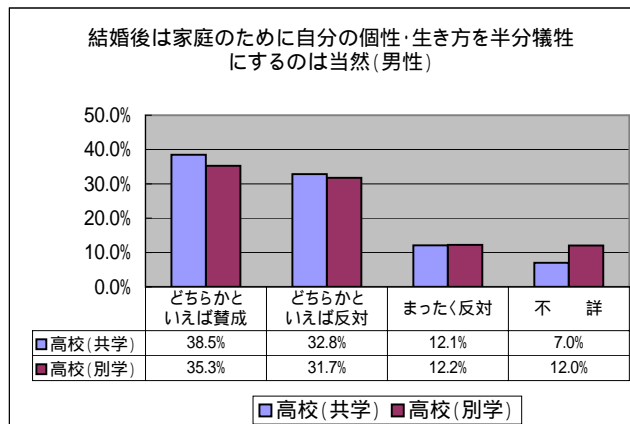
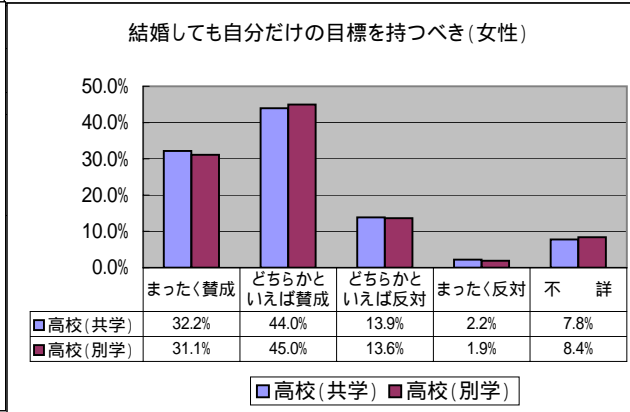
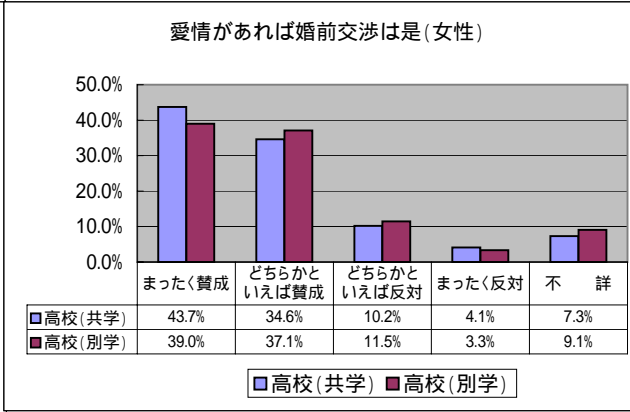
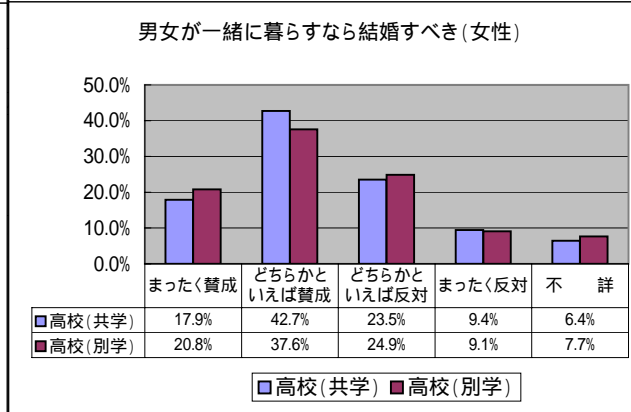
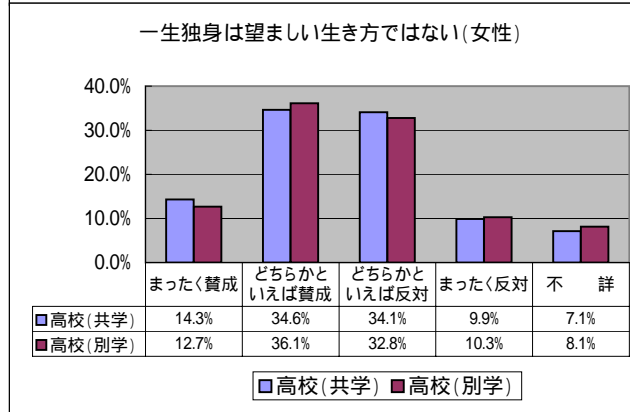
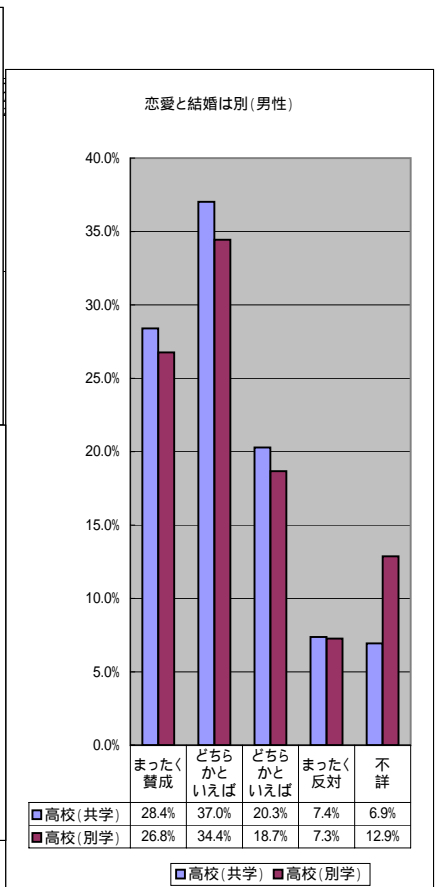
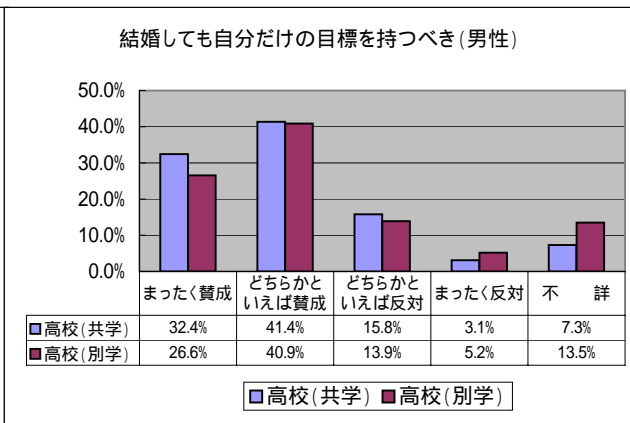
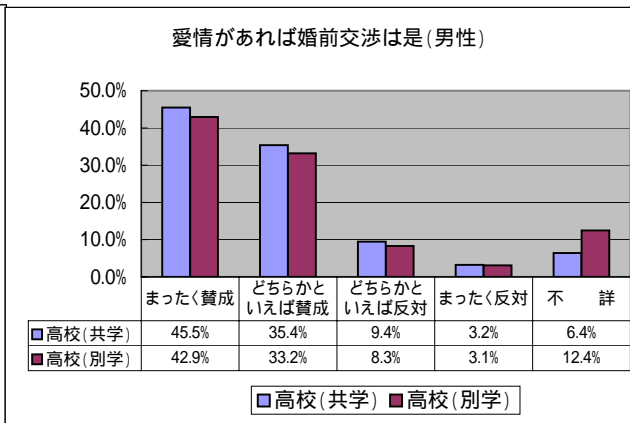
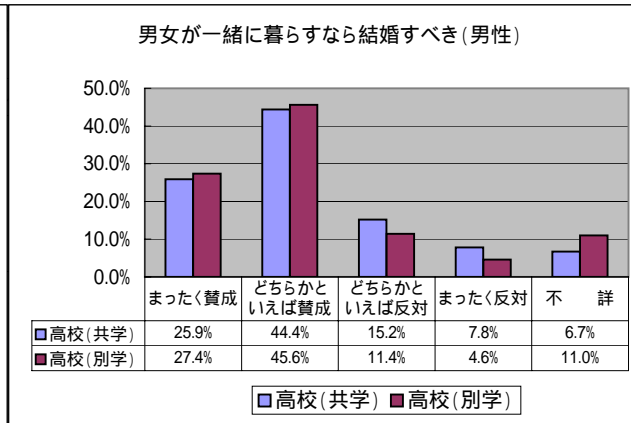
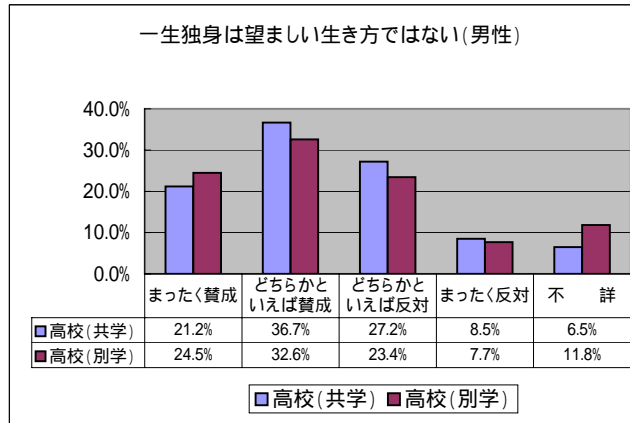


御協力有り難うございました。

宮城県の教育行政当局が昭和20年代に、占領軍の絶対的な圧力に抗して別学校の存続に尽力した当時の様子を示す史料(宇野量介「戦後の宮城教育を語る」より)：

「宮城県の財政難とか、アイオン、カスリン風水害の後始末とか、男子校に女子を収容するためにはかなりの費用がいるとか、下手に男女共学を実施すると、それでなくても戦争後は男女の性道徳が混乱するのだから・・・(中略)・・・高校の内容充実のために、PTAの力も借りねばならず、同窓会の協力も馬鹿にはならないのだ。この同窓会との縁を切って共学にふみ切るだけの勇気はないのだ。一体全体、共学にしてしまえというのは、占領軍の絶対命令かと開き直ったこともあった。すると命令ではない。サジェスチョン勧告だという。そんなら、民主主義の原則に則って、地域の実情、住民の意志は尊重されてもよからうではないか。全部一律に型通りにせよというのは、むしろ民主主義に反するのではないか。それでは全体主義に通ずるのではないか、などと冷や汗をかきながら、陳弁につとめたことであった。」(下線は当研究会が付した。)

全体を通しての御意見がありましたらどうぞ：



高校学歴による未婚男女の結婚観(国立社会保障・人口問題研究所:第11回出生動向基本調査資料より作成)